

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201193		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム ハートかしわ		
所在地	千葉県柏市高田1032番地1		
自己評価作成日	平成24年2月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成24年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが心豊かに過ごせるよう支援している。本年度は外出を多く心がけて月に1回の外出を目標に掲げ実施した。デイサービスと連携を図り利用者個々の機能向上に努めている。常に開かれたホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の特別養護老人ホームとデイサービスが併設しており、日頃の交流や合同行事等の実施がなされ、入居者の生活の活性化が図られている。また、緊急時や災害時の協力体制が構築されており、安全かつ安心した生活の支援がなされている。全職員が入居者一人ひとりの思いや生活状況に配慮した対応に努めており、穏やかでその人らしい生活がおくれるように支援している。定期的なボランティアの来訪や地域住民との交流により、生活活性化が図られていると共に、地域との繋がりを大切にし、理念に基づいた運営がなされている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会に根ざした施設として地域と共生する、入居者が安心できる生活、生命を最大限に保障する、敬愛を持って接遇する、ニーズに即応するを主眼とした法人の理念を掲げていると共に、毎年、事業所の目標を職員全員で考案している。	法人独自の理念を明文化し、施設内に掲示していると共に、会議等を通じて職員に周知・徹底を図り、理念に基づいたサービスの提供に努めている。毎年、全職員で目標を作成しており、具体的なサービス実践に向けた意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体で地域住民を交えたイベントがある。	地域住民とは散歩時に挨拶を交わす等、関係づくりがなされている。また、併設の特別養護老人ホームとの合同行事へ招致や、定期的な地域ボランティアの来訪により、地域との繋がりを大切にした運営がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	疑問、質問については説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年度は運営推進会議を3回行い、会議で出た意見を職員間で再検討し、話し合いの機会が増えた。	今年度の運営推進会議は3回開催されている。会議においては、事業所の活動報告や意見交換が行われており、施設の理解促進に努めていると共に、構成員である、入居者・家族・関係者等から挙げた意見や問題の提起等を尊重し、運営やサービスの質の向上に繋げている。	

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会に加入しており、連絡会を通じて市に意見や要望を提出している。また、市に対して業務全般における相談や連絡を随時行い、連携を図っている。月に1回市から派遣された介護相談員が来訪し、相談や意見交換を行っている。	日頃から、運営推進会議や業務相談等を通して、市とは密に連携を図っている。また、市の介護相談員が定期的に来訪しており、適切なアドバイスを受ける等、市との協力体制が構築されている。その他、柏市グループホーム連絡会に参加しており、市や他のグループホーム事業所と連携し、地域の情報収集や現状に即したサービスの提供等に努め、課題解決等に向けた協働体制が整備されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的に取り決めている。玄関は自動で施錠されるようになっているが解除方法も説明してあり自由に出入りできる。	身体拘束の排除における施設方針を明文化し、マニュアルの整備や研修の実施等、全職員が身体拘束排除の意義を理解している。日中は玄関の施錠はせず、一人ひとりに合わせた声掛け・見守り・外出支援の対応により、入居者らしい、自由を束縛しないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加したり、併設特養に虐待防止委員会があり、虐待について学んだり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが、今のところ活用する入居者はおらず支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接での説明及び契約時の重要事項説明書により、十分に行っている。退居時ご本人、ご家族が納得されるまで話し合う。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を確認している。挙げた意見や要望においては、職員間で周知・検討を行ない、適切な対応に努めている。また、月に1回介護相談員が来訪しており、外部からの意見も参考にサービスの質の向上に努めている。	家族の意見や要望については、面会時や電話連絡にて確認している。また、運営推進会議の活用・介護相談員の受入れ等、様々な方法を駆使し、意見や要望の収集に努めている。挙げた意見や要望においては、全職員で周知・検討を行い、適切な対応やサービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションやミーティング、また半年に1度の考課査定の面接時等で意見を聞く機会を設ける。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見や提案を確認している。また、管理者が日々の業務の中でコミュニケーションを取りながら、職員の意見や思いを直接確認しており、働きやすい職場環境の整備や職員の育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回行う考課査定で個々の状況を把握するとともに併設の特養やデイサービスなどその人に合った人員配置で向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	柏市グループホーム連絡会にて行われる勉強会や外部研修には積極的に参加をしている。研修参加後は、報告書・資料の回覧にて、情報の共有を図っている。月に1回内部研修を行い、職員の育成を行なっている。また、併設の特別養護老人ホームにて衛生管理委員会等が設置されており、委員会にて開かれる勉強会や事例検討会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、他施設との意見・情報交換を行なっていると共に、勉強会・見学会等が開かれ相互の質の向上に努めている。また、コンサートや外出会等の合同行事が行われており、職員・入居者・家族間の交流も図られている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は随時受け付けている。利用に至る場合、必ず2、3回の面談を行い、不安や疑問等への明確な説明を行なう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に沿った解決策(他のサービス利用も含め)を提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は、園芸や料理が得意な入居者からアドバイスを受けると共に、人生経験や生活の知識を学んでおり、共に支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、状況報告を行い必要に応じて協力をして頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約者様の禁止がない限り全ての方の面会に応じている。また、ご家族の要望に応じ、冠婚葬祭等への参加支援も行う。	入居者の生活暦・趣味等を把握し、馴染の生活継続に配慮している。また、墓参りや地域行事への参加等の外出支援を実施し、生活習慣の継続を図っている。併設の特別養護老人ホームやデイサービスと交流が行なわれており、生活の活性化に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者への不満等に対しては十分な説明を行い理解し合える関係作りに努めている。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受け付け必要に応じて、転居先に訪問も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族・本人と面談を行ない、本人・家族の意向や生活歴等を記録している。また、日々の生活において、本人・家族から意向を確認し、記録している。定期的に意向や生活歴等を記録した基本情報表を更新し、常に新しい情報が職員へ周知されている。	入居時の面接や入居後の面会等を通して、家族の思いや意向を把握し、記録している。日頃の入居者との会話や表情等から意向を汲み取りると共に、家族との話し合いや生活状況の記録を活用し、より新しい情報の収集に努め、ケアの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者・家族から生活歴など情報収集を行いアセスメントシートに記載している。その内容を折りにふれて話題にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩コース、入浴時間、レクリエーション、外出等において本人の希望と有する力を把握して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画においては、会議にて職員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。また、面談時にて確認し本人・家族の意向や生活歴に合わせた介護計画の作成に努めている。作成後は、職員への周知を図ると共に、家族に説明を行い、了承を得ている。	入居者・家族の意向や記録を基に、職員間で意見交換や検討を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて、介護計画の見直しが行われている。職員は申し送りノート等の記録を活用し、意見交換・情報交換を随時実施し、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や申し送りノートに個別記録し、情報の共有をして、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養にくる理美容や訪問歯科を希望に応じて利用したり、ディサービスのレク参加し交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行うふれあいリハビリやふれあいサロンに参加し地域の方との交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっており、希望により職員が通院を支援している。定期的に歯科往診を実施し、口腔ケア・歯科治療がなされていると共に、必要に応じて内科往診を実施しており、適切な医療支援が行われている。	希望のかかりつけ医への受診が可能になっており、希望に応じて職員による付添い支援が行われている。また、定期的に内科や歯科の往診が行なわれており、適切な医療支援が行われている。併設の特別養護老人ホームの医師や看護師による健康管理や相談対応が実施されており、医療面における協力体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護職に相談を行なえる体制ができており、適切な健康管理が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いへ出向き、通院関係者から情報を行って退院後も		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と十分に話し合い医師と連携を取りながら、入居者・家族の意向に沿った終末期の支援を目指している。	重度化や終末期の対応については、随時、施設としての取り組み方を家族に説明し、同意を得ている。本人や家族の意向を尊重し、必要に応じて医療機関や他の施設への切り替えも考慮し、意向に沿った支援を行っている。また、必要に応じて家族・医師・看護師等と話し合う機会を設け、施設の機能を活かしながら柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。	

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時のマニュアルがあり、新人職員には指導するが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルや緊急連絡網を作成している。避難訓練・消防訓練を2ヶ月に1回、併設施設と合同で行っている。訓練の時は、職員、入居者、近隣住民も参加していると共に、夜間を想定した訓練等も行われている。また、併設施設にて備蓄や緊急持ち出し袋が用意され緊急・災害時への対策がなされている。	定期的に併設の特別養護老人ホームと共に、夜間想定を含めた消防避難訓練を実施している。火災や地震に備えた設備環境やマニュアルが整備されており、適切な災害対策がなされている。消防避難訓練では、家族や地域住民の参加を呼びかけており、災害時における地域の協力体制の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設独自に接遇ルールを定めており、その人に合った言葉遣いやさりげない介助を職員が意識していると共に、入浴・排泄時のプライバシー保護の重要性を意識し、入居者の尊厳を尊重したサービスを提供している。	職場環境適正化運動の実施により、入居者一人ひとりに合わせた対応や言葉遣いに配慮している。また、マニュアルの整備や研修の実施等により、全職員が意義を理解している。声掛けや介助方法を工夫し、入居者のプライバシーの確保や個人情報の保護には、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その利用者の好きなこと、関心の高い話題等で希望を言いやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は定めておらず、本人のペースや希望に沿った生活を支援している。また、本人の希望に応じて散歩やレクリエーション等に参加してもらっていると共に、特技を生かした活動を支援しており、本人らしい生活を支援している。希望が言い出せない入居者に対しては、日々の観察や会話の中から希望を汲み取っている。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は本人が着たい服を着ている。外出・行事の時は目的や状況等最低限のアドバイスをし、本人が選べるように支援する。理美容も本人の希望により受け入れられように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の管理栄養士が作成した献立をもとに入居者の希望を取り入れながら行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・テーブル拭き・お茶入れ等を職員と共同で行なっている。献立は入居者の希望を取り入れながら、併設の特別養護老人ホームの栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供が行なわれている。定期的に外食会の実施や行事食等の提供が行われており、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作成していると共に、嗜好や能力に応じた食事提供がなされている。また、水分の摂取目標を定めており、食事・水分の摂取量を記録している。摂取量が不足している場合は、好みの物や摂取しやすい物に変更し、必要な栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの支援を行う。週1回来る訪問歯科に必要に応じ受診する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握しそれに応じた支援を行う。不安や羞恥心への配慮から1対1の対応を行なっている。	排泄チェックリストを活用し、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、個別に適切な対応がなされており、トイレでの排泄が支援されている。また、必要に応じて医師や看護師等と相談しながら適切な排泄支援に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事のバランスを心掛け便秘予防をしている。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数や時間等柔軟に支援している。また、清拭等を実施し、入居者の清掃保持に努めている。浴室は広く、床暖房も設置されており、快適な入浴を支援している。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し、無理強いしないよう配慮している。	入浴は毎日実施しており、入居者の希望に応じて回数や時間等、柔軟な入浴支援がなされている。また、必要に応じてシャワー浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。浴室は十分な介助スペースが確保されており、床暖房が設置される等、安全で快適な入浴ができるような造りとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好みやスケジュールに合わせ休憩や入眠時間を決めている。寝具類も本人の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルで各個人の薬の用法・用量・副作用等わかるになっている。医師の指示通り支援し、薬の変更があった場合には、申し送り、症状の変化を観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。毎日、塗り絵や歌等のレクリエーションを実施していると共に、園芸等の得意分野を活かした趣味活動を支援している。また、併設のレクリエーション活動や合同行事に参加し、楽しみを提供している。定期的な行事を企画・実施、家族や地域住民を招待し、様々な人との交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ毎日、散歩を行っている。定期的な外出を企画し実施しており戸外での楽しみを支援している。	日頃から散歩や併設の特別養護老人ホームやデイサービスの方々との交流等が行なわれており、戸外での楽しみを支援している。また、定期的に外出会が企画・実施されており、入居者の生活活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者にはしていただき、できない入居者には力量に応じて支援している。金銭管理できない、入居者は立替式をとっており家族にも同意を得ている。		

グループホーム ハートかしわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望により支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はバリアフリーとなっており、廊下や共有スペースは広く設計されている。リビングには、テーブルやソファが設置され、入居者が自由にくつろげる環境となっている。また、エアコン・換気扇・加湿器にて適切な空調管理がなされている。トイレ・浴室は十分な介助スペースが確保されていると共に、呼び出しブザーが設置され安全面に配慮されている。中庭には畑があり、ボランティアと共同で野菜や花の栽培を行っている。	施設内はバリアフリーとなっており、安全面に配慮した造りになっている。玄関・廊下・トイレ等は十分な介助スペースが確保されている。リビングにはテーブルやソファが設置されており、入居者が思い思いに過ごせるような環境となっている。中庭の畑では花や野菜が栽培されており、季節感が感じられるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて、一人ひとりが自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により、馴染みの物を持ち込む事が可能であり、居心地よく生活できるよう配慮している。全居室にエアコンや換気扇が設置され適切な空調管理がなされている。全居室に洗面台が設置され利便性に優れていると共に、希望に応じてナースコールを設置し、安全面に配慮している。	入居者や家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等、自由に持ち込む事が可能となっており、居心地の良く生活ができるよう配慮されている。また、入居者の生活スタイルや身体状況に合せた居室造りがなされており、その人らしい暮らしを支援している。エアコンの設置により、適切な空調管理がなされており、快適に過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に応じた介助を行いできるだけ自立した生活をしていただいている。また、随時所在確認等を行い、安全に配慮している。		